

2025年度 初音が丘地区センター

健康麻雀マナー・ルール

マナー編

0. 『かけない』 『のまない』 『すわない』です。
1. 「自分に厳しく、人に優しく」を心がけましょう。
2. 「ポン」「チー」「カン」「リーチ」「ツモ」「ロン」の発声は明確に行いましょう。
3. 先ヅモ、牌を強く叩きつける、大声を出す等は絶対にしないでください。
4. 捨て牌は6枚で折り返してください。
5. 対局中の「口三味線」や対局相手への批判など言動には細心の注意を払いましょう。また、局終了後の「解説」も慎みましょう。
6. ゲーム中、手牌は伏せないようにしましょう。
7. あがった時は牌を見やすく並べてから倒すようにしましょう。
8. 点棒の受け渡しが終わるまでは、手牌と牌山を崩さないように。また点棒の受け渡しは、静かに丁寧に場に置いて渡しましょう。
9. ゲームが始まる前には「よろしくお願ひします」、ゲームが終わったら「ありがとうございました」と挨拶しましょう。

ルール編

1. 食いタンあり・後付けあり
2. 東場、南場の半荘戦
3. 25,000点持ち、半荘終了後、得点をそのまま記入。(例：28,500)
4. 順位点を加減算する。同点の順位は上家が上位になる
(1位+12,000・2位+4,000・3位▲4,000・4位▲12,000)
5. ノーテンは場に3,000点。(親子とも同じ)
6. 連荘は一本場につき300点
7. 親がノーテンなら親流れで、オーラスならゲーム終了(供託:トップ取り)
8. 途中流局一切なし(九種九牌、四風子連打・四人リーチ・四槓流れなど)
9. 形式テンパイあり(自分が待ち牌をすべて使っている時は無効)
10. 流し満貫なし
11. あがり者は常に一人のみ(同時あがりは上家優先)
12. 王牌は常に14枚残し
13. 役満のパオ(責任払い)は大三元の3フーロ・大四喜の4フーロ目をポンあるいは大明槓させた時とし、ツモは全額・ロンは放銃者と折半(半額)
14. 30符6翻(60符5翻)は子で8,000点、親で12,000点
15. 役満は4倍満。ダブル役満はなし。役満であってもルール上の特例はない。(国士無双のあたり牌を暗槓された際のチャンカンロンや国士無双13面待ちだからといって現物以外のフリテンロンなどは認めない)

16. 数え役満はなし（場ゾロを含めて15翻以上でも3倍満）
17. 次のルールは採用しない
 - ・人和・十三不塔・大車輪・三連刻・カン振り・二翻しばり
18. 食いかえはなし
19. フリテンリーチあり
20. リーチ後、アガリ牌をツモ切りしても構わない（フリテンリーチとなる）
21. 一発・裏ドラ・カンドラ・カン裏ドラあり。赤牌はなし
22. ノーテンリーチは流局時、チョンボ扱いとなる
23. 食いタンあがりでピンフ状態の場合は30符扱いとする
24. 箱割れ（0点）は借りて続行する。※健康麻雀大会適用ルール

罰則編

1. チョンボ

誤ツモ、誤ロンなどで手牌を倒してしまうなど、ゲーム続行不能にした場合は、親または子に関わらず3,000点ずつ残りの3人に支払い、その局をもう一度やり直す（その局の供託は出した人に返還する）。

2. 1,000点罰則

最初に発声したポン・チー・カンができない場合は1,000点を供託し、そのままゲームを続行する。（ただし同巡内のロン・ポン・カン・チーはできない。）

ただし、チーあるいはポンと言ってしまったが本当はロンだったという「ポン→ロン」あるいは「チー→ロン」のケースはそのアガリを認める。

3. あがり放棄

誤ツモ、誤ロンで手牌を倒すとチョンボだが、手牌を倒していない発声のみのケースはあがり放棄で局を続行する。あがり放棄となった者はテンパイおよびリーチしていてもノーテン扱いで、ポン・チー・カンできない。多牌・少牌をした場合は、気が付いた時点で必ず「あがり放棄」を宣言する。

※このルールは健康麻雀を推進する多くの団体のルールを参考にして、「健康麻雀初音が丘」がまとめたものです。不備な項目、疑問の点等は、その場で検討していきます。